

令和 2 年度

人間生活学総合研究科教授内容

修士課程・博士課程共通科目

東京家政大学大学院

R2 修士課程・博士課程共通科目

(8) 共通科目(博士課程・修士課程)

区分	授 業 科 目	単位数	必選別	担 当 教 員	備考(シラバスページ)
共 通 分 野	論文作成のための統計解析入門	2	選	客員教授 西 村 純 一	P1 P2
				客員教授(兼任) 市 原 茂	
	プレゼンテーション論	2	選	客員教授 松 木 孝 幸	P3
	アカデミック・ライティング	2	選	教 授 小 泉 仁 講 師 トム・エドワーズ ロバート・ジェイムス・ロウ	P4

R2 修士課程・博士課程共通科目

授業科目名： 論文作成のための統計解析入門	単位数：2単位	選択	担当教員名：西村純一
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>論文作成に必要な統計解析についてリサーチワークの基礎として学ぶ。とくに、推測統計と多変量解析の諸手法を理解し、論文作成にあたって、それらを適切に用いる力をつけることが授業の到達目標である。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>t検定、分散分析、回帰分析、因子分析など、研究で多用される代表的な統計解析手法を学ぶ。統計解析のためのコンピューターソフトウェアSPSSの利用法についても取り上げる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：記述統計について</p> <p>第2回：推測統計について</p> <p>第3回：独立な2群の平均値差の検定</p> <p>第4回：対応のある2群の平均値差の検定</p> <p>第5回：カテゴリ変数間の連関の分析</p> <p>第6回：分散分析（1）完全無作為1要因デザイン</p> <p>第7回：分散分析（2）完全無作為2要因デザイン</p> <p>第8回：分散分析（3）主効果と交互作用効果</p> <p>第9回：分散分析（4）対応あるデザイン</p> <p>第10回：相関と回帰</p> <p>第11回：重回帰分析</p> <p>第12回：因子分析（1）</p> <p>第13回：因子分析（2）</p> <p>第14回：クラスタ分析</p>			
<p>授業外学修：テキストによる予習1時間、復習としてノート整理1時間</p>			
<p>テキスト</p> <p>「SPSS統計解析マニュアル」</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>足立浩平「多変量データ解析法—心理・教育・社会系のための入門」ナカニシヤ出版 ISBN978-4779500572</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>データ処理実習の参加と理解度</p>			
<p>その他：</p>			

R2 修士課程・博士課程共通科目

授業科目名： 論文作成のための統計解析入門	単位数：2単位	選択	担当教員名：市原茂
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究で用いられた統計解析手法による分析結果を適切に読み解くことができる。 ・研究で多用される統計解析手法を自ら適切に用いることができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>t検定、分散分析、回帰分析、因子分析など、研究で多用され論文作成に必要となる代表的な統計解析手法を学ぶ。統計解析のためのコンピューターソフトウェアRの利用法についても取り上げる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：独立な2群の平均値差の検定 第2回：対応のある2群の平均値差の検定) 第3回：カテゴリ変数間の連関の分析 第4回：分散分析（1）完全無作為1要因デザイン 第5回：分散分析（2）完全無作為2要因デザイン 第6回：分散分析（3）主効果と交互作用効果 第7回：分散分析（4）対応あるデザイン 第8回：効果量 第9回：相関と回帰 第10回：重回帰分析（1）分散説明率など 第11回：重回帰分析（2）偏回帰係数など 第12回：主成分分析 第13回：因子分析（1）因子数の決定など 第14回：因子分析（2）因子の回転など</p>			
<p>授業外学修：授業で示された予習に1時間、授業で学んだ内容の復習に1時間（目安）</p>			
<p>テキスト：なし</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>「心理・教育のための分散分析と多重比較：エクセル・SPSS解説付き」山内光哉（著）サイエンス社 「Rによる統計解析」青木繁伸（著）オーム社 「多変量データ解析法—心理・教育・社会系のための入門」ナカニシヤ出版</p>			
<p>学生に対する評価：授業への参加度50%、授業中に提示された課題の理解度50%</p>			
<p>その他：</p>			

R2 修士課程・博士課程共通科目

授業科目名： プレゼンテーション論	単位数：2単位	選択	担当教員名：松木孝幸
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>知識：プレゼンテーション用ソフトの種類を比較して、その使い分けができる。</p> <p>技能：必要なプレゼンテーション用ソフトを適宜選択して使いこなせる。</p> <p>態度：適切なプレゼンテーションの使い方について議論することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>大学院の細分化された各領域で、各人が行っている研究内容は異分野の人達には理解し難い。しかし、最近の研究内容を第三者にも分かるように説明することが文書でも口頭でも求められている。この授業では、大学院生の研究内容を簡潔に表現（文書と口頭）することを学習する。なお前半では、発表機器およびソフトウェアの概要について学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：公開されている情報の紹介（SlideShare、Prezi等）</p> <p>第3回：有名な論文の概要の説明／各学生の実践・講評</p> <p>第4回：分かりやすい概要の例／各学生の実践・講評</p> <p>第5回：分かりやすい話の例／各学生の実践・講評（1）</p> <p>第6回：分かりやすい話の例／各学生の実践・講評（2）</p> <p>第7回：学生の実践に対する学生による批評</p> <p>第8回：研究内容の発信（ガイダンス）</p> <p>第9回：書画等を用いた表現・発表方法</p> <p>第10回：プレゼンテーションソフトの機能と作成・操作法</p> <p>第11回：プレゼンテーションソフトによる表現法・発表法（1）</p> <p>第12回：プレゼンテーションソフトによる表現法・発表法（2）</p> <p>第13回：動画・静止画による表現法・発表法</p> <p>第14回：総合評価・まとめと解説</p>			
<p>授業外学修：その単元の内容について自分なりの考えをまとめて討議に臨むこと</p>			
<p>テキスト：なし</p>			
<p>参考書・参考資料等：「なぜあなたの発表は伝わらないのか」</p>			
<p>学生に対する評価：授業態度(30%)、レポート(40%)、討議(30%)</p>			
<p>その他：</p>			

R2 修士課程・博士課程共通科目

授業科目名： アカデミック・ライティング	単位数：2単位	選択	担当教員名：(オムニバス) 小泉 仁・ トム・エドワーズ・ ロバート・J・ロウ
授業の到達目標及びテーマ <ul style="list-style-type: none"> ・日本語と英語の文章構成の違いを知り、論理的な表現方法が身に付く ・個々の分野の英語学術論文のための、英語らしいアブストラクトが書ける。 ・英語参考文献の書き方、論文のスタイルなどについての知識を獲得できる。 ・英語での研究成果発表のための基礎力がつく。 			
授業の概要 授業の概要 講義： 論理的な英文の書き方の基本的なルールを学び、そのルールに則した英文が書けるよう にする。学術的な英語の文章の構成や表現を知る。 添削： 講義で学んだことを踏まえて制作した文書について、ネイティブ教員の添削及び指導を 受け、英語力を高める。			
授業計画 講義部分：（第1回～第7回：小泉担当） 第1回：オリエンテーション 第2回：日本語と英語の文章構成の違い 第3回：パラグラフ・リーディングの基礎 第4回：パラグラフ・リーディングの実践 引用・註の方式について 第5回：パラグラフ・ライティングの基礎 第6回：パラグラフ・ライティングの実践 自分の研究内容について、簡単に人に伝えてみる 第7回：課題レポート制作 実践部分：トム・エドワーズ、ロバート・J・ロウ 第8回～第14回：ネイティブスピーカー教員とアポイントメントを取り、課題レポート等の添削を受けたい文書について、指導を受ける。			
授業外学修：英語論文およびパラグラフ・ライティングについての知識は前提としないが、自己の研究テーマに関わる専門用語はひととおり英語で押さえて置くこと。			
テキスト：担当教員がプリントを用意する。			
参考書・参考資料等：Q:Skills for Success (Oxford University Press) 他パラグラフ・ライティング教材			
学生に対する評価：授業内での発表40%、討論への参加状況30%、課題30%により評価する。 60 %以上を合格とする。			
その他：8回以降については、差し迫って添削を受ける必要がない場合にも教員に連絡すること。			